自　己　評　価　表

愛媛県立松山中央高等学校
学校番号（ 23 ）

教育方針	心と心の触れ合いを大切にして、一人一人の個性を伸ばす教育を推進する。	重点努力目標	1　すべての生徒に興味・関心を持ち、面倒見の良い教職員集団をめざします。 2　徹底した生徒理解とモチベーションを上げるための面談をおこない、一人一人の学力の向上と進路実現をめざすとともに、社会に貢献できる人材の育成をめざします。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
豊かな人間性	規範意識の高揚（生徒）	基本的な生活習慣の確立を目指し、８時１５分までの登校実現100%を目指す。 Ａ：100%　Ｂ：99.9～99.5%　Ｃ：99.4～99% Ｄ：98.9～98.5%　Ｅ：98.4%以下	E	昨年度は8時15分に間に合わなかった生徒が一日平均で14.8人（実現98.6%）であったが、今年度は途中段階（12月末現在）で28.6人（実現97.3%）となった。様々な問題を抱える生徒が増えており、集団として規則正しい生活習慣の確立に影響があったと考えられる。同じ生徒が繰り返し指導されている現状もありこのような結果となった。	自転車通学が100%の状況であることを踏まえて、ゆとりを持った安全登校を習慣づけることを徹底したいと考えるが、目標達成が困難であった。家庭や学校生活に様々な問題を抱えている生徒も多く、同じ生徒が間に合っていない実態がある。そのため、各HRや学年単位での啓発を充実させるとともに、家庭や学校生活に不安を抱える生徒については、教育相談課や人権教育課と連携して早期に適切な対応をする必要があると考える。
	部活動の活性化（特活）	部活動加入率90%以上を目指し、より効果的で計画的な活動を推進しながら、継続して活動に参加できるようにする。 Ａ：90%以上　Ｂ：89～85%　Ｃ：84～80% Ｄ：79～75%　Ｅ：74%以下	A	年度当初の加入状況が92.4%で、年度後半には転退部により90.1%の加入状況となった。年間通じて数値目標を達成することはできたが、転退部による加入率の低下が見られた。	学習と部活動の両立を目指している生徒も非常に多くみられるので、各部活動の活動状況に応じた目標設定や修正を行い、主体的に継続して活動できる雰囲気づくりを促していく。
		より高い目標の達成を目指しながら、全国規模の大会出場５団体以上を目指す。 Ａ：５団体以上　Ｂ：４団体　Ｃ：３団体 Ｄ：２団体　Ｅ：１団体以下	A	文化部門3部、体育部門2部の合計5つの部活動が全国規模の大会・イベントに出場または出品することができた。また、校外活動ではあるが、生徒1名が全国大会に出場した。	前年度の活動状況や結果を踏まえながら継続的に活動できる環境を整えるとともに、より高い目標を持ちながら意欲的に取り組む態度の育成に努める。
	読書活動の充実（図書研修）	生徒一人あたりの読書冊数年間１０冊以上を目指す。 Ａ：１０冊以上　Ｂ：９～８冊　Ｃ：７冊 Ｄ：６～５冊　Ｅ：４冊以下	A	4月～1月の読書冊数（1・2年）は、8991冊（1年4000冊、2年4991冊）である。一人あたりは、12.8冊（1年11.2冊、2年14.5冊）である。年間目標の一人あたり10冊以上を達成したクラスは、1年生6クラス、2年生全クラスであった。	今年度、調査を各月ごと（昨年度までは学期ごと）に行い、その都度図書委員が呼びかけることで成果があったので、継続していく。朝の読書、ビブリオバトル、図書館の広報活動等を通して、読書に親しむ姿勢を育成していく。冊数だけでなく、読解力や思考力を高める内容の本にも挑戦させるよう、工夫する。
	体験的・奉仕活動の充実（特活）	生徒会や家庭クラブ、各部活動を中心にボランティア活動や交流体験学習への積極的な参加を通して、奉仕の心と社会貢献への意識の高揚を図り、一人一回以上の参加を目指す。	C	今年度も感染症の防止対策のため2年生の介護体験学習は実施することができなかったが、家庭クラブをはじめ各部活動単位でのイベントボランティアなどは積極的に参加することができた。	継続的に行ってきた介護体験学習については、状況に応じて関わり方を検討しながら実施できる方向性を見出していく。また、自分にできる社会貢献について考える機会として様々なボランティア活動への自主的な参加を促していく。
	清掃活動の徹底（保健環境）	自ら考えて時間いっぱい清掃できる生徒100%を目指す。 Ａ：100～90%　Ｂ：89～80%　Ｃ：79～70% Ｄ：69～60%　Ｅ：59%以下	B	時間いっぱい清掃できている生徒が増えている一方、自ら考えて主体的に取り組めている生徒は増えていない。	各清掃箇所の具体的な清掃分担や方法について指導するとともに、物や場所をきれいに使うことも指導していく。また、美化委員による月に一度のトイレチェックも引き続き行い、日々行き届いた清掃ができるように、根気強く呼びかけていく必要がある。
	個人面談の充実（進路・教育相談）	年間5回以上の個人面談を行う。 A：5回以上　B：4回　C：3回　D：2回　E：1回以下	A	年間5回以上の面談を達成することができた。特に、生徒面接は進路指導の充実とともに、生徒観察や悩み相談のよい機会となっている。	効果的な面談にするため、生徒や保護者が話しやすいと感じられる人間関係を構築しながら、様々な疑問や不安に丁寧に対応していきたい。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。

自　己　評　価　表

愛媛県立松山中央高等学校
学校番号（ 23 ）

教育方針	心と心の触れ合いを大切にして、一人一人の個性を伸ばす教育を推進する。	重点努力目標	1　すべての生徒に興味・関心を持ち、面倒見の良い教職員集団をめざします。 2　徹底した生徒理解とモチベーションを上げるための面談をおこない、一人一人の学力の向上と進路実現をめざすとともに、社会に貢献できる人材の育成をめざします。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
確かな学力	教科指導の充実（教務）	生徒による授業評価7.5以上を目指す。 Ａ：10.0～8.0　Ｂ：7.9～7.5 Ｃ：7.4～7.0　Ｄ：6.9～6.5　Ｅ：6.4以下	A	半数以上が9.0を超えており、目標を達成できている。他学年と比較して、1年生の授業評価が最も低いので改善を図らねばならない。	生徒の授業評価アンケート結果を意識しながらも、日頃の授業における生徒の取組を観察したり、各種考査・模試の結果を分析したり、相互授業授業を行ったりすることで授業改善を図りたい。
	学習習慣の定着（教務）	１日の家庭学習時間の各学年の目標達成を目指す。 Ａ：100%～90%　Ｂ：89%～70% Ｃ：69%～50%　Ｄ：49%～30%　Ｅ：29%以下	B	1年生3時間、2年生3.5時間、3年生4時間の目標に対し、1年生2時間7分で達成率71%、2年生2時間11分で達成率62%、3年生3時間57分で99%であり、全体平均77 %の達成率であった。特に2年生の取組がよくない。	2学期末考査2週前としては、学習時間が十分とは言えない。昨年より全ての学年で学習時間の低下がみられる。学習の質も大切だがまず、量そのものが不足しており、学力低下につながることが想像される。「何を」「どのように」「どのくらい」やるべきか、あまりにも幼稚ではあるが、丁寧に指示することが必要かもしれない。
	キャリア教育の充実（進路）	進路目標の実現率100%を目指す。 Ａ：100～95%　Ｂ：94～90% Ｃ：89～80%　Ｄ：79～70%　Ｅ：69%以下	B	今年度も外部業者に協力していただき、学年全体で学部・学科説明会を実施したり、希望者ではあるがオンラインによる進学ガイダンスに参加する機会を提供したりすることができた。	積極的に進路関係イベントに参加する生徒もいれば、受動的態度の生徒もいる状況であり、もう少し学年単位で参加する機会・イベントを設定する必要もあるかと考える。
	進路指導の充実（進路）	国公立大学および難関私立大学の合格120名以上を目指す。 A:120名以上　B:119名～100名 C:99名～80名　D:79名～60名 E:59名以下	A	国公立大学および難関私立大学を合わせて、124名の合格者を出すことができた。地元の松山大学に関しても、のべ411名の合格者が出ている。	大学入学共通テストをはじめ、入試制度の変化・多様化が顕著である。こうした入試制度の変化に関する情報提供に努めるとともに、まずは、生徒の学力向上に主眼を置き取り組んでいきたい。また、多様化する生徒の現状も踏まえ、進路実現に向けた具体策を検討する必要もあると考える。
開かれた学校づくり	ＰＴＡ活動の充実（総務）	ＰＴＡ総会において、保護者の出席率40%以上を目指す。 Ａ：40%以上、Ｂ：39～35%、Ｃ：34～30% Ｄ：29～25%　Ｅ：24%以下	B	総会当日行事全体への出席率38%。上昇が顕著であり、同日に参観授業、進路説明会を行った効果が出ている。研修旅行が荒天のため中止になったことは残念だが、運動会・中央祭のバザーや各種委員会活動に多数の保護者の協力を得ることができ、活動がコロナ禍前に戻った。	生徒が家庭に持ち帰るプリントだけでなく、保護者連絡網サービス等も用して情報を発信し、総会の実施やPTAの活動内容の周知を徹底していく。なお、PTA活動から集約された意見が学校活動に反映されるよう、教職員との連携を図る。
	保護者との連携・協力（総務）	公開授業において、参加者数120名以上を目指す。 Ａ：120名以上　Ｂ：119～100名 Ｃ：99～90名　Ｄ：89～80名　Ｅ：79名以下	A	公開授業参観者は、257名と過去6年間では最多となった。コロナ禍が明けたことで中学校関係者へも案内ができ、中学生の保護者52名の参加を得ることができた。関心の高さが伺える。	来年度も、イングリッシュデーや教科選択説明会などといった行事と組み合わせることで、保護者の参加を促したい。保護者が学校に足を運ぶ機会を増やすことで、本校の取り組みや生徒の状況をより理解していただくきっかけにする。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。また、業務にやりがいが持てるように適材適所の業務分担を行う。	C	各教職員が自身の勤務状況を振り返る機会を設定し、大学生スクールサポーター、テレワークの導入やICT機器の活用により、業務の削減や効率化を図った。しかし、まだ改善の必要がある。	校務分掌など業務分担のあり方を見直すと同時に、業務の見直しや削減（統合・縮小・廃止）を検討し、実行していくことが喫緊の課題である。教職員の意識改革については、引き続き行っていく。教職員が安心して業務に当たれる環境を作ることによって、やりがいや達成感を得られるようにしていく。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。